

## 第3期千葉県地方創生総合戦略

～デジタル田園都市国家構想の実現に向けて～  
原案概要



## 第Ⅰ章 千葉県人口ビジョン

### 1 千葉県を取り巻く現状等

#### (1) 総人口及び人口動態

- ①総人口の推移
- ②人口動態
- ③県内各地域の状況
- ④東京23区との関係
- ⑤在留外国人の推移

#### (2) 就業や産業等の状況

### 2 千葉県における長期的な展望

#### (1) 人口の将来見通し

- ①我が国における人口の長期的展望
- ②千葉県の将来人口
- ③人口減少の影響
- ④第2期千葉県地方創生総合戦略の進捗状況等を踏まえた第3期千葉県地方創生総合戦略における課題

#### (2) 地方創生に向けて目指すべき理想像

(千葉県の地域ビジョン)

- ①本県への人の流れの加速
- ②目指すべき理想像 (千葉らしいライフスタイルの創造)

## 第Ⅱ章 第3期千葉県地方創生総合戦略

### 1 計画期間

### 2 施策の方向性

#### (1) 序論

#### (2) 基本目標

#### (3) 地方創生におけるデジタルの活用

#### (4) 豊かな自然環境の保全

### 基本目標 (1) 地域経済を活性化する環境づくり

- ①未来を支える産業の振興
- ②京葉臨海コンビナートの競争力強化
- ③環境保全と経済成長の好循環の創出
- ④中小企業の活性化支援
- ⑤地域の創意工夫による経済活性化の取組の促進
- ⑥力強い農林水産業の確立
- ⑦千葉の強みを生かした観光地の整備
- ⑧地域と空港の発展が好循環する地域づくり

### 基本目標 (2) 多様な人材が活躍できる社会づくり

- ①多様な人材が集う環境の整備
- ②半島性を克服する交通ネットワークの強化
- ③誰もが活躍できる社会の実現
- ④誰もが学び・学び直しができる社会の実現
- ⑤様々な人材が参画できる地域コミュニティの実現

### 基本目標 (3) 子育てしやすい社会づくり

- ①妊娠・出産・子育ての環境整備
- ②子育て支援の充実
- ③未来を担う子どもの育成

### 基本目標 (4) 県民が暮らしやすい地域づくり

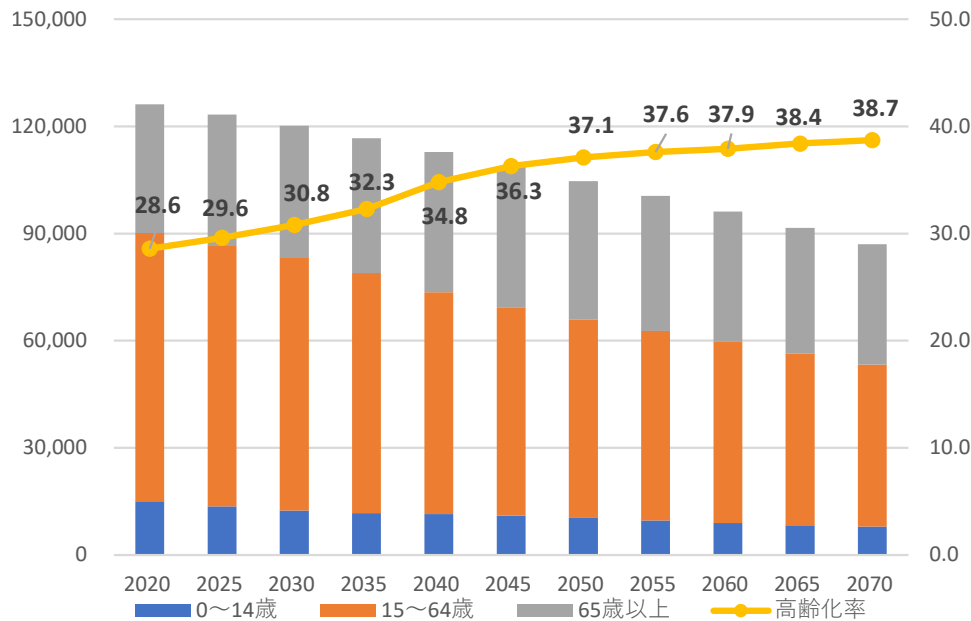
- ①安全に暮らせる環境の整備
- ②健康で安心して暮らせる社会の構築
- ③快適で暮らしやすいまちづくり
- ④文化芸術・スポーツを生かした千葉らしい地域づくり
- ⑤スマート自治体の実現
- ⑥地域連携の強化

# I. 人口ビジョン

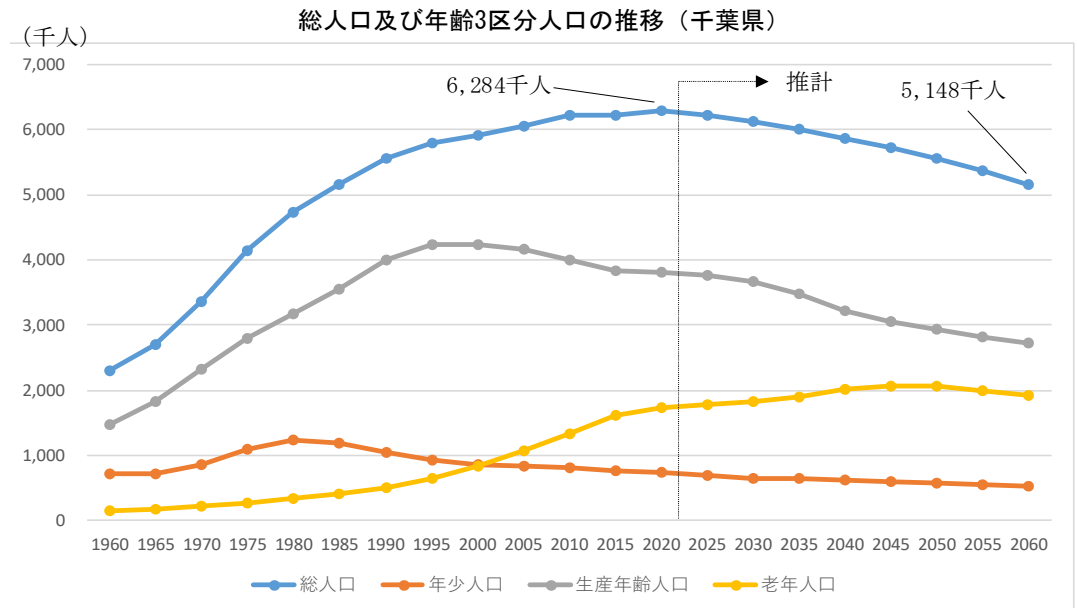
## 人口の将来見通し

○我が国の人口は2008年をピークに減少傾向にあり、社人研推計によると、2020年国勢調査による1億2,615万人から、2070年には8,700万人（2020年時点の69.0%）に減少するとされている。

○総合計画策定時に実施した将来推計人口では、2060年の総人口は514.8万人（2020年に比べ113.6万人、約18%減少）となる見込み。生産年齢人口が約53%に減少し、高齢化率は約37%まで上昇する。



国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」



資料：新たな総合計画における県推計

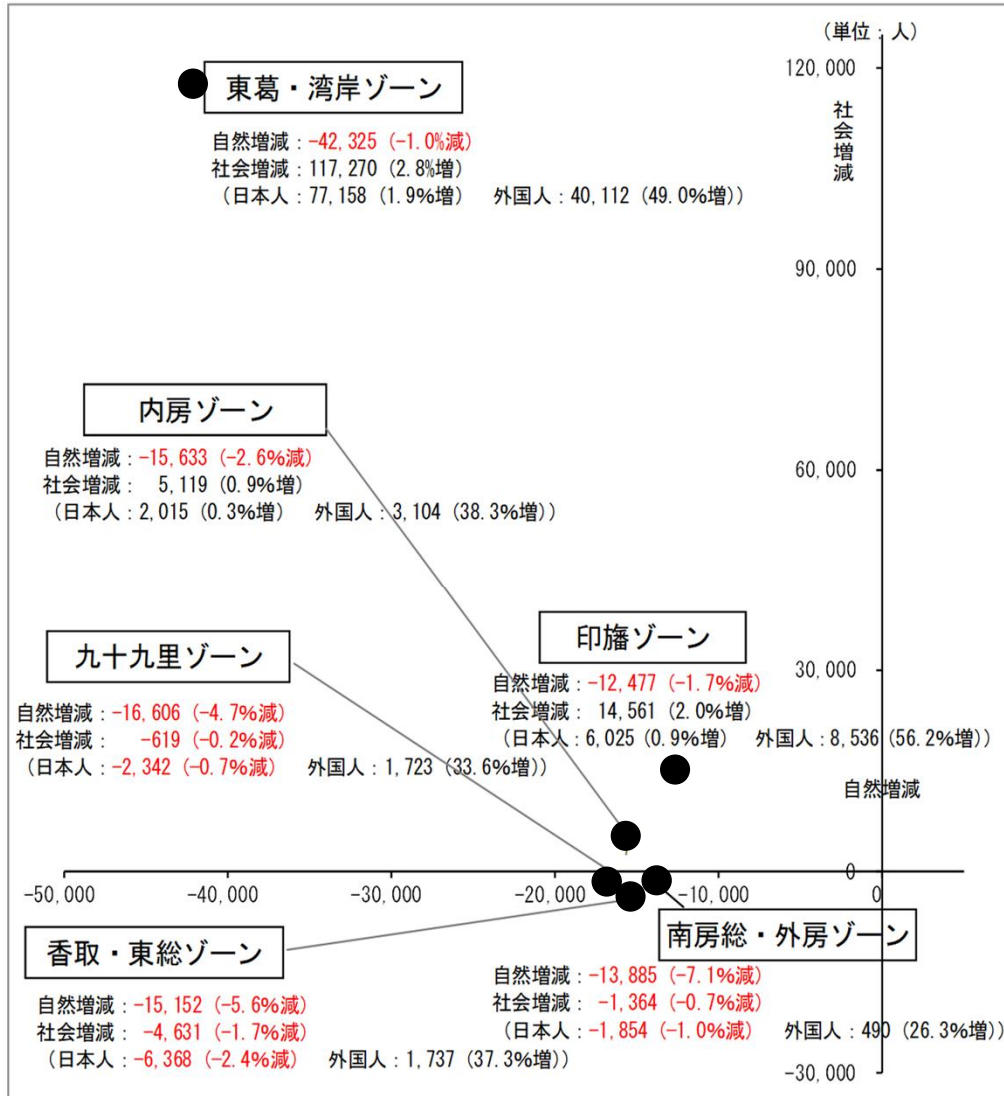
# I. 人口ビジョン

○県内各地域における人口の状況は、社会増となっている地域、社会減となっている地域に分類することができる。なお、社会減となっている地域でも外国人は社会増となっている。

○2020年以降、転入超過に転じているものの、転出者を年代別にみると、20歳代の若者の割合が半数以上を占める。

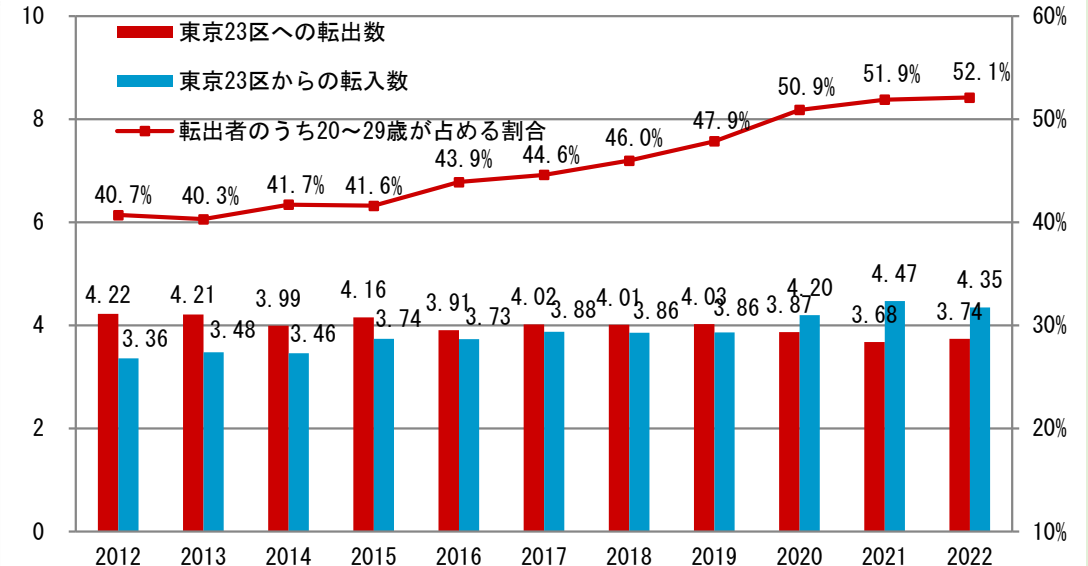
○在留外国人は年々増加しており、2022年には、176,790人と2018年と比較し、16.2%増加している。

## ○県内各ゾーンの人口動態の状況



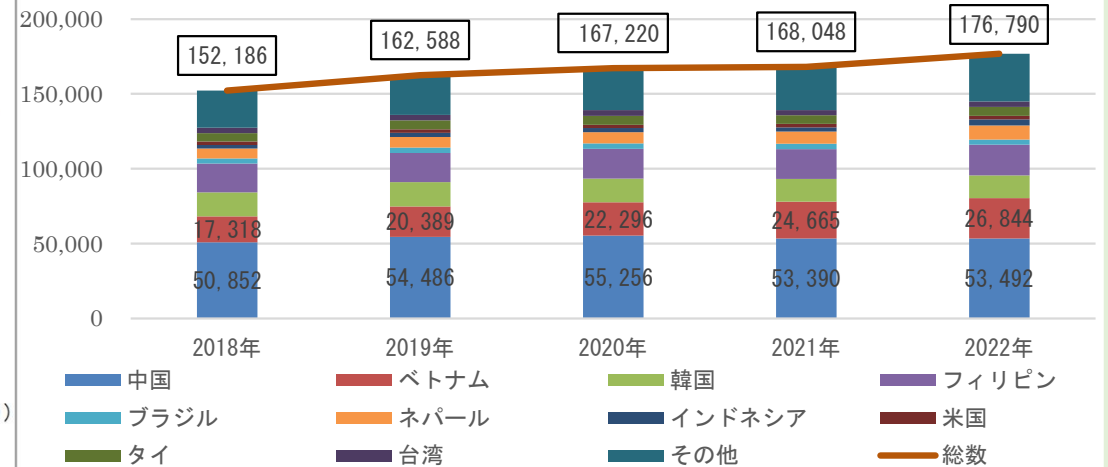
資料：2018～2022年「千葉県毎月常住人口調査」

## ○転出・転入の推移（東京23区との関係）



## ○在留外国人の推移

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」



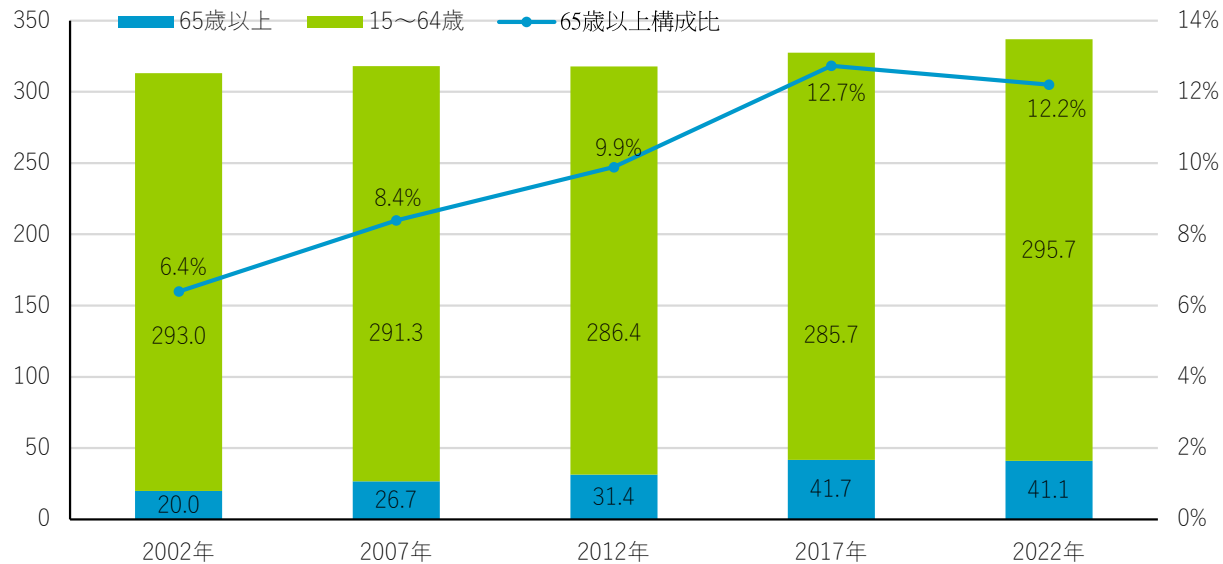
資料：出入国在留管理庁「在留外国人統計」

# I. 人口ビジョン

○本県の有業者は、2002年の313.1万人から2022年の336.8万人に7.6%増加している。年齢区分で見ると、2022年には、減少傾向にあった15～64歳までの有業者が増加に転じ、2002年と同程度に回復した。

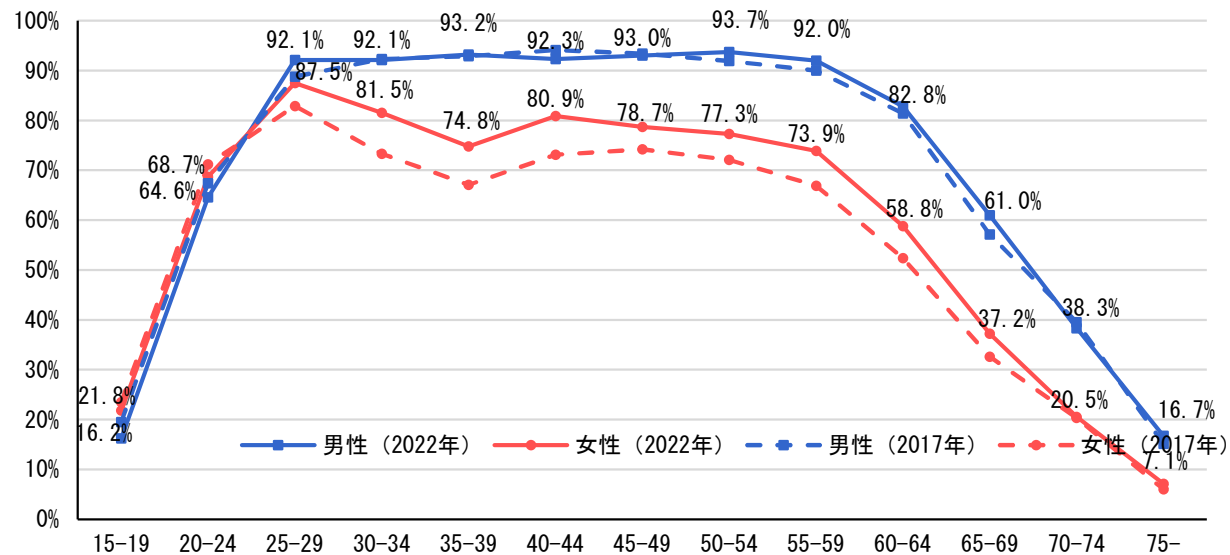
○男性の有業者は、25～59歳の年齢階級において、90%を超えている。一方女性の有業率は、2017年に比べるとほとんどの年齢階級で上昇しているものの、結婚・出産期に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に上昇するという、いわゆる「M字カーブ」の傾向が依然として見られる。

## ○有業者の推移



資料：総務省「就業構造基本調査」

## ○有業率



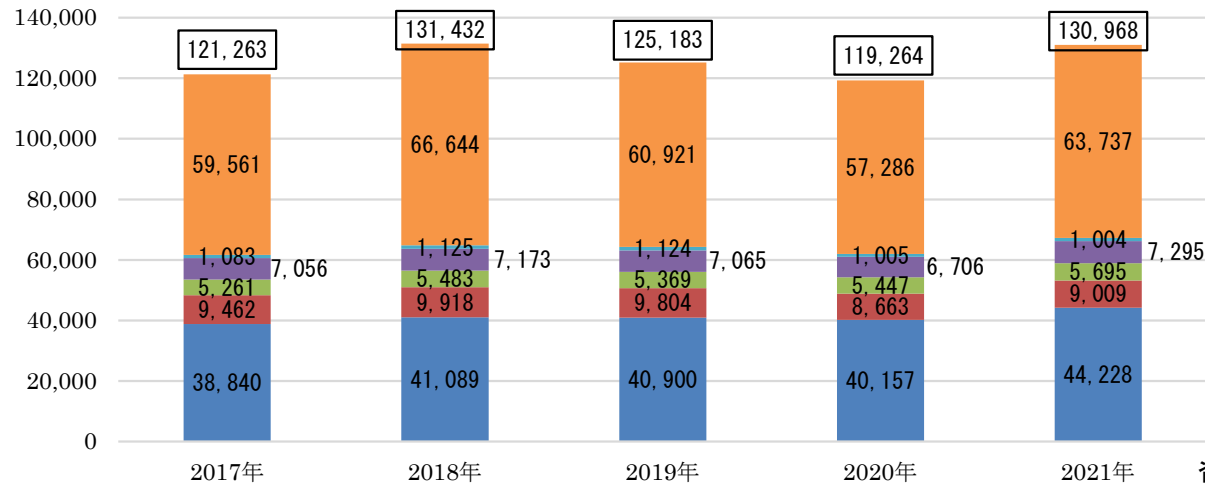
資料：総務省「就業構造基本調査」

# I. 人口ビジョン

○2021年の製造品出荷額等は、前年より増加しており、全国順位は8位となっている。また製造品出荷額等は、京葉臨海コンビナートを要する内房ゾーンが最も高く、ほぼ半分を占めている。

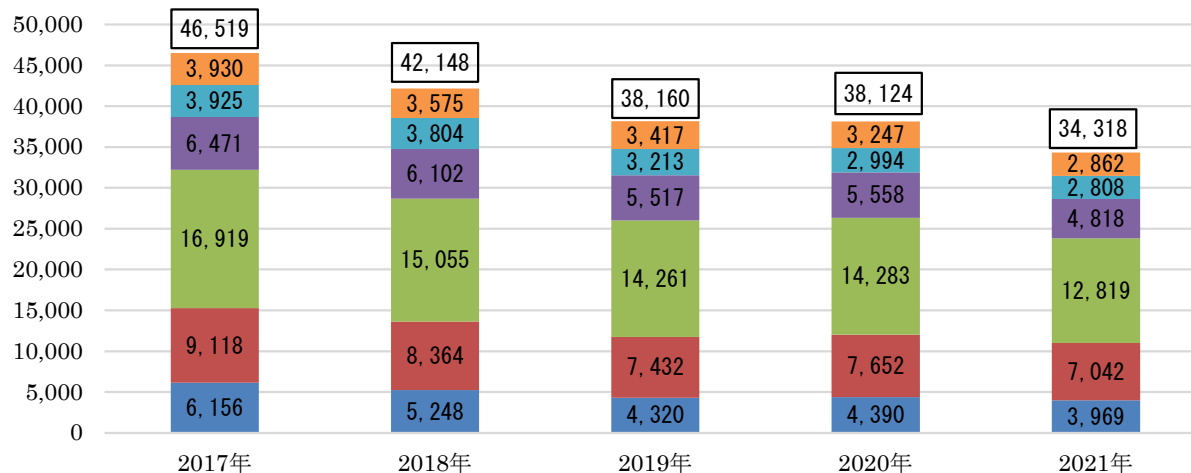
○2017年以降、農業産出額は減少しており、特に2021年は本県で多発した鳥インフルエンザなどの影響もあり、2020年と比較して10%減少しており、全国順位も6位となっている。

## ○製造品出荷額等の推移



資料：経済産業省  
「工業統計、経済構造実態調査」

## ○農業産出額の推移



資料：農林水産省  
「市町村別農業産出額（推計）」

# I. 人口ビジョン

## 第2期総合戦略を踏まえた第3期総合戦略における課題

### 【働く】

- 県全体としては人口の社会増が続いているが、地域差が大きく、様々な分野において担い手不足の解消が必要
- 成田空港の更なる機能強化や交通ネットワークの整備など、千葉県のパテンシャルが一層拡大する好機を迎えている。  
こうした本県のパテンシャルを生かし、良質な雇用の場の創出が必要
- 感染症の影響で落ち込んだ観光産業が未だ回復せず、全国と比較すると本県の外国人延べ宿泊数の回復が遅くなっており、観光客を惹きつける高付加価値の観光コンテンツの醸成が必要

### 【活躍する】

- 年齢や性別などに関わらず誰もが活躍できる環境が必要
- 社会に出てからも、必要なスキルを身に付けられる環境が必要
- 半島性を克服する交通ネットワークの整備が必要
- 人口の社会増が拡大しており、今後も千葉に向かう人の流れを加速化していくためにも、地域のブランド化を進め、移住等の推進が必要

### 【育む・育つ】

- 子どもを生き育てやすいと感じる家庭の割合が減少していることから、子育て環境の更なる充実が必要
- 感染症の影響もあり、出生数が減少していることから、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりが必要

### 【暮らす】

- 令和元年房総半島台風等以降も大きな災害が生じ、「安全」の確保に対する県民の期待が高まっており、地域で安全で快適に暮らせるまちづくりが必要
- 感染症の影響もあり、安心して受診できる医療体制にあると感じている県民が減少していることから、健康で安心して暮らせる社会の構築が必要

なお、このような課題に対し、デジタルの力を積極的に活用しながら、解決していくことが重要である。



# I. 人口ビジョン

## 目指すべき理想像：千葉らしいライフスタイルの創造

- 「千葉らしいライフスタイル」として、千葉らしいライフスタイルやそのポイントについては、例えば次のようなものが考えられる。
- 「千葉らしいライフスタイル」は一過性で終わらせるのではなく、例示したライフスタイルに惹かれて集まった人が、新たな「千葉らしいライフスタイル」を創造し、それが広がっていく好循環が生まれることを目指す。

### ○ほどよく、住みよく、シティライフ

- ・千葉でも都心に近い地域に住むライフスタイル。都内に比べ、家賃が手ごろで住まいも広くとれる。
- ・都市部であっても、人混みが酷くなく、周辺に適度な自然や商業施設、遊興施設などがあるのが千葉の魅力。
- ・交通網が整備され、房総半島へのアクセスも良く、農水産物やキャンプ等を目的とした小旅行も楽しめる。

### ○千葉で広がる！趣味に全開ライフ

- ・千葉で様々な趣味を楽しむライフスタイル。千葉はサーフィンやSUPをはじめとした海遊びはもちろん、様々な音楽フェス、各地のキャンプ場やサイクリングロードなどがある。
- ・こうした趣味を楽しみながら、都内などへも通勤できるのが千葉の大きな魅力。

### ○千葉でのびのび子育てライフ

- ・千葉の一戸建てで子育てするライフスタイル。千葉は首都圏の中でも比較的手ごろに一戸建ての購入が可能であり、広やかな住環境でのびのびと子育てができる。
- ・住環境だけでなく、大きな医療機関や教育、保育などの施設が充実している場所が多いのも千葉の魅力。

### ○千葉で謳歌するセカンドライフ

- ・温暖な気候でセカンドライフを楽しむライフスタイル。千葉は気候が安定しており、半島地域であっても医療機関へのアクセスが良い地域もあり、リタイア後の生活を送るには最適である。
- ・高速道路が整備されており、成田空港に行きやすいことから、思い立ったら海外旅行に行くことができるのも千葉の魅力。

### ○千葉でチャレンジ！スタートアップライフ

- ・千葉で起業するライフスタイル。千葉は人口の社会増が続いており、特に新しいまちに人が多く引っ越してきている。そうしたまちには新しいチャレンジを受け入れるだけの環境があり、人材の集積もある。
- ・千葉は多くのコワーキングスペースやインキュベーション施設があり、起業を支援する環境があることも千葉の魅力

### ○千葉で育む、農業の新たな成功ライフ

- ・千葉で農業をはじめめるライフスタイル。千葉は農業も盛んであり、落花生や梨などは日本一の生産量を誇る。
- ・加えて、物流の2024年問題以降、東京に隣接する千葉の競争力は更に上昇する可能性がある。
- ・ワンストップ輸出拠点機能を備えた成田市公設地方卸売市場があり、農林水産物の輸出にも強みがあることも千葉の魅力



## Ⅱ. 第3期千葉県地方創生総合戦略（計画期間：2024年度～2027年度）

### 施策の方向性

- 本県では、まち・ひと・しごと創生法に基づき、2015年10月に「千葉県地方創生総合戦略」を策定し、急激な人口減少に歯止めをかけ、地域の活力を取り戻す地方創生の取組を進めてきたところである。
- 今後は、新たに生じた地域課題に対応するとともに、デジタルの力などを活用しながら、「人が働き、活躍し、育み・育ち、暮らす」ことで地方創生をさらに発展させていくことで、「千葉らしいライフスタイル」を創造していく。
- また、各地域の実情に応じた施策を効果的に実施していくため、住民に最も身近な自治体である市町村と密接に連携しながら、県と市町村の施策が相乗効果を発揮するよう取り組んでいく。

### <第3期千葉県地方創生総合戦略の基本的な方向性>

様々な分野での人手不足の解消や「千葉らしいライフスタイル」を創造するためには、本県の魅力や可能性を伸ばす「人」が重要。

『「人」が働き、活躍し、育み・育ち、暮らす』

### <基本目標>

既に本県においても、総人口が減少に転じており、また、新型コロナウイルス感染症（以下、「感染症」という。）の拡大を契機に、ライフスタイルの変化や デジタル化の進展、対面型から非対面型ビジネスモデルへの移行など、様々な社会情勢の変化が生じている。

こうした中、目指すべき理想像（地域ビジョン）である「千葉らしいライフスタイルの創造」を実現するため、国が戦略で示した取組方針を参考にするとともに、「千葉県総合計画」及び「千葉県デジタル・トランスフォーメーション推進戦略」、県総合戦略の基本的な方向性を踏まえ、基本目標を以下のとおりとする。

#### 基本目標1（働く）

地域経済を活性化する環境づくり

#### 基本目標2（活躍する）

多様な人材が活躍できる社会づくり

#### 基本目標3（育み・育つ）

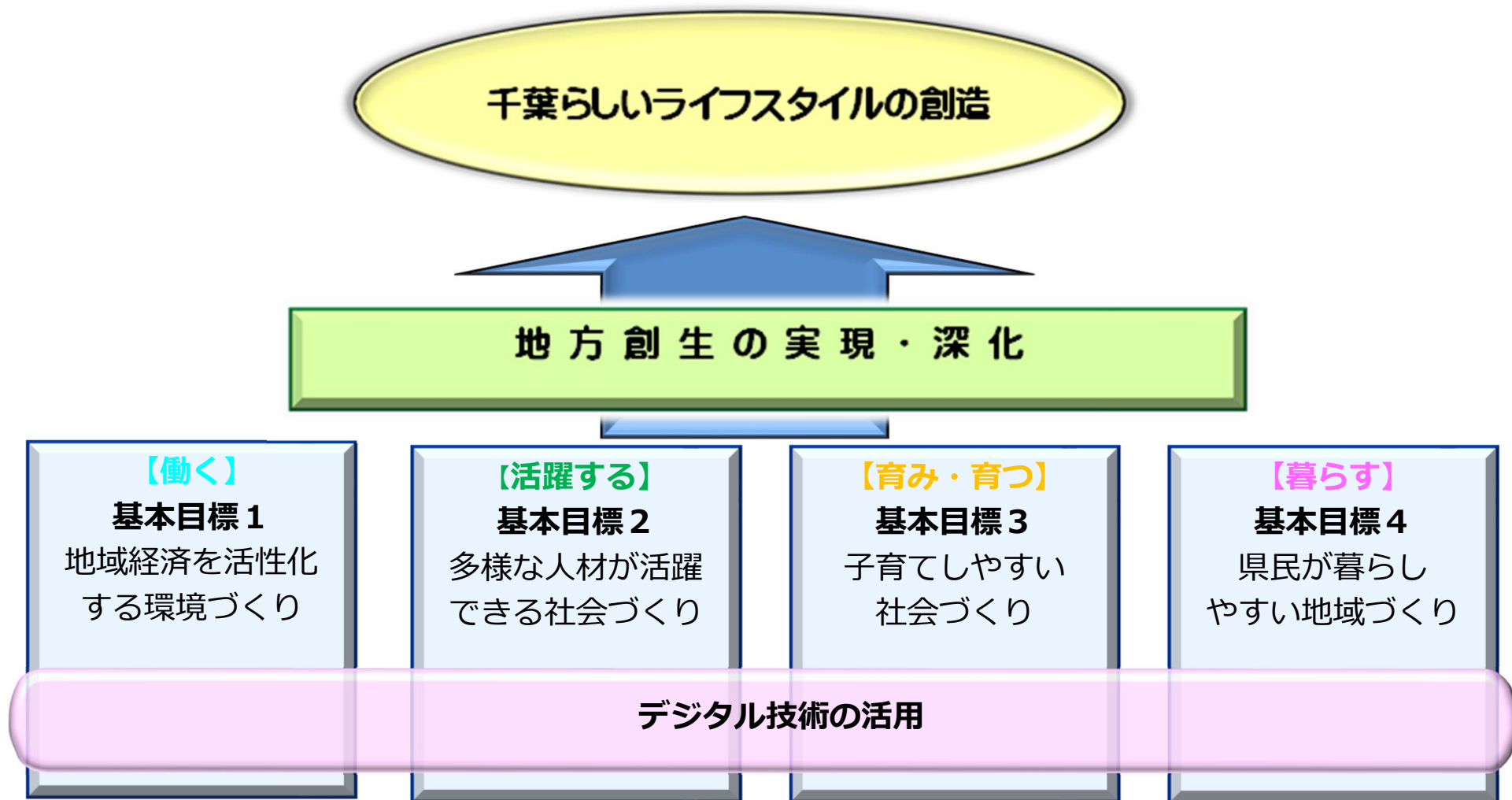
子育てしやすい社会づくり

#### 基本目標4（暮らす）

県民が暮らしやすい地域づくり

## Ⅱ. 第3期千葉県地方創生総合戦略（計画期間：2024年度～2027年度）

改訂に向けた基本的な方向性（イメージ図）



## Ⅱ. 第3期千葉県地方創生総合戦略（計画期間：2024年度～2027年度）

### 地方創生におけるデジタルの活用

○本県でも総人口が減少に転じており、特に東京から遠い地域などで人口減少が進み、少子高齢化による人手不足が避けられない状況である。こうした中、デジタルを活用することにより地域社会の生産性や利便性を高めるとともに、サービスや製品などの開発につなげ、新たな価値を生み出すことで、地域の活力を維持・向上させていくことが必要である。

○デジタルには自動化、見える化、最適化、つながる、分かち合う「シェアリング」、個々に合わせる「パーソナライズ」など、様々な可能性がある。そのため、デジタルの活用は、人の暮らしの可能性を広げ、多様なニーズに対応でき、さらに、新たなビジネスなどを創造することができる。

○千葉県は日本の縮図と言われているとおり、デジタル化においても、都市部と地方部で活用条件が異なっており、さらに地域ごとに必要となるデジタル技術やデジタル人材の育成状況も異なっている。そのような中、地域それぞれの課題等の解決に資するように、デジタル化を推進していくことや、デジタル化を担う人材の育成が重要である。

そこで、今回の総合戦略において設定した基本目標ごとにどのようにデジタルを活用していくか整理する。

#### ①デジタルで「働く」を次のステージへ

労働人口が減少する中、デジタル技術によって、産業の生産性向上を図るとともに、新たなイノベーションやサービスの創出につなげる。

・中小企業のDXの推進 ・スマート農林水産業の加速化 ・デジタルを活用した観光振興

#### ②デジタルは「活躍する」を広げる

新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、デジタル技術を活用したテレワークなどの新しい働き方に取り組む企業・人々が増えており、物理的に通勤が可能な範囲から、人々の活躍の場を広げる。

・テレワーク・ワーケーション等の推進

#### ③デジタルが「育み・育つ」を変える

デジタル技術は、教育などの子どもを育む分野でも積極的に活用が図られており、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるなど、「育み・育つ」を変えていく。

・ICTを活用した教育の質の向上

#### ④デジタルで「暮らす」を安全で楽しく

デジタル技術を活用することで、社会基盤施設や医療などの「暮らす」の安全がさらに向上するとともに、文化芸術などの新たな表現の創出による「楽しみ」等の実現を図る。

・デジタルを活用した安全な地域づくりの推進 ・医療・福祉・介護分野でのデジタル化の推進 ・インフラDX

・まちづくり分野でのDXの活用 ・県行政のDXの加速化 ・市町村DXの推進に向けた連携・支援



## 基本目標1：地域経済を活性化する環境づくり（働く）

本県経済は、感染症の拡大によって生じた様々な環境の変化に加え、デジタル化の進展、脱炭素社会への取組などにより、社会経済の大きな変革期を迎えている。

こうした中であっても、農林水産業や観光業との連携などにより、次世代に求められる総合力の高い産業を創出し、地域の新たな雇用につなげていくとともに、県内各地域の発展を目指し、新たな産業・地域づくりに向けて戦略的に取り組む。

また、成田空港の更なる機能強化に合わせた地域の発展を促進するとともに、空港の利活用の促進や県内外との交通アクセスの更なる充実により、本県経済の活性化を目指す。

さらに、本県産業が持続的に発展するよう、商工業の経営基盤や農林水産業の生産基盤等の強化を図るとともに、将来を支える産業人材の確保・育成を進める。

### ⑥ 力強い農林水産業の確立 オ スマート農林水産業の加速化

農林水産業における生産性の向上と労働力不足への対応のため、技術の現地実証や本県の重要品目の生育予測技術等の開発・実用化を行うとともに、関連技術等の情報提供や機械等の導入支援を行う。

また、ICT等を活用した効率的な森林整備や、民間の開発力を活用したスマート水産技術の導入を推進する。技術の導入と併せて、各地域での研修会の開催や普及指導員による巡回指導、相談対応による農業者への関連情報の提供、農業大学校や県立高校の農業科等において、スマート農業を学ぶ機会の充実を図る。

### ⑧ 地域と空港の発展が好循環する地域づくり ア 成田空港を支える人材の確保を起点とした地域づくり

成田空港の更なる機能強化を踏まえ、国、県、空港周辺9市町（成田市、富里市、香取市、山武市、栄町、神崎町、多古町、芝山町、横芝光町）、空港会社の四者で策定した「成田空港周辺の地域づくりに関する『実施プラン』」を着実に推進し、地域に居住し、地域と空港の持続的な発展を支えるために必要な人材を確保する取組を起点として、空港や航空関連ビジネスへの人材の輩出や暮らしの拠点となるまちづくりなどの生活環境の向上や、産業振興、インフラ整備といった地域活性化策に取り組んでいくことで、「地域の発展」と「空港の発展」の好循環を生み出し、持続的に発展する地域づくりを進めていく。



## 基本目標2：多様な人材が活躍できる社会づくり（活躍する）

様々な人が本県に住み、訪れ、連携・協力していくことにより、相互作用や相乗効果を生み出し、社会経済の活力、創造性を高めていくことができると考えられることから、将来にわたって活力ある千葉県を維持していくためには、様々な人を千葉県に呼び込み、その人が活躍できるようにすることが重要である。

このため、本県の大きな課題である半島性の克服のため、交通ネットワークの充実を図ることで、千葉に向かう「人・モノ・財」の流れをより一層大きくしていくとともに、デジタル環境の整備状況を踏まえ、移住・二地域居住やテレワーク・ワーケーションなどの取組を進めることで、多様な人材が集う環境を整える。

また、千葉県に集まった人々が十分に活躍できるよう、多様性が尊重され、誰もが活躍できる社会の実現を図る様々な取組を進めていく。

### ① 多様な人材が集う環境の整備 ウ テレワーク・ワーケーション等の推進

人々の価値観や生活が多様化し、働き方にも変化が生じている中、ライフスタイルに合わせて働く場所や時間を自由に選択できるテレワーク等の多様な働き方が広がるよう、県内企業等に対し普及啓発を図るとともに、企業の取組を支援する。

さらに、新たな旅のスタイルであるワーケーションは地域への波及効果が高く、また、首都圏にありながら風光明媚で温暖な本県は、ワーケーションの場として優位性が高いことから、ワーケーションの受入環境を整備する地域の取組の支援等を行うことにより、観光需要の平準化や滞在時間の延長、消費拡大を図る。

### ② 半島性を克服する交通ネットワークの強化 ア 高規格幹線道路等の整備促進

半島性を克服し、全国や県内各地との交流や連携の強化を図り、人やモノの流れの円滑化により、地方創生や国土強靱化の実現をもたらすストック効果をより一層発揮させるため、高規格幹線道路等の整備を促進する。

### ④ 誰もが学び・学び直しができる社会の実現 ア リカレント教育・リスキリングの推進

社会に求められる産業人材の育成につなげるため、学び直しの動機付けとなる講座を実施するとともに、リカレント教育推進協議会を設立し、産学官の連携体制を構築するなど、生涯にわたり、必要な知識を学び直すリカレント教育を推進する。

また、主に中小企業の在職者を対象に、ITをはじめとした仕事に必要な技能や知識を習得できるスキルアップセミナーのほか、経営者や人事担当者向けにDX人材の育成に関するセミナー・講座を開催することにより、中小企業におけるリスキリングの取組を支援する。

## 基本目標3：子育てしやすい社会づくり（育み・育つ）

県民の結婚・子育ての希望を実現するためには、妊娠・出産・子育てのライフステージに応じて、誰もが安心して子どもを生み、育てられる環境をつくることが重要である。

このため、子育てに要する経済的な負担軽減など、妊娠・出産・子育てに係る総合的な支援や、子育てを地域全体で支える環境づくりを行うとともに、子どもの主体性や創造性を育むような保育の質の充実に向けた取組を行う。

また、国のこども大綱を踏まえ、県においても総合的なこども関連施策に取り組んでいく。

さらに、大きな社会的な変化・変革の中で、新しい時代に対応する「生きる力」を持ち、千葉県未来を担う子どもや若者を育てていくため、デジタルも活用しながら、個々の能力や可能性を最大限に伸ばしていく。

### ① 妊娠・出産・子育ての環境整備 イ 子育てに要する経済的負担の軽減

子育てに係る保護者の経済的負担の軽減のため、子どもが病気や怪我などにより受診した場合の医療費の助成について、県と市町村が一体となり取組を継続する。

子育てと仕事の両立支援や、費用負担の軽減に加え、人格形成の基礎づくりに重要な幼児教育の機会を保障するため、幼児教育・保育の無償化を実施する。また、私立学校に在籍する子どもや保護者の経済的負担の軽減等を図るため、私立学校に助成する。

さらに、県全体で子育て家庭を応援するため、県内の企業や商店等の協力を得て、子育て家庭が買物などの際、割引等のサービスを受けられる「子育て応援！チーパス事業」などの推進を図る。

### ③ 未来を担う子どもの育成 イ キャリア教育の推進

学校における全ての教育活動を通じて、家庭や地域、産業界との連携の下、働くことの意義や尊さ、学校における学びと将来との関係を考えさせる系統的なキャリア教育を推進するとともに、将来の労働市場を見据え、社会で求められ活躍することのできる人材を育成するために、地元企業等と連携した専門的職業教育の充実に向けた取組や、地域への愛着を育むとともに、その地域で必要とされる人材育成の充実を図る。

また、子どもたちの職業意識等の実態に基づいて、目標を持たせ、社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や態度を身に付けるために、キャリア教育に係る教職員の指導力の向上を図る。

さらに、障害のある生徒の学校卒業後の暮らしが豊かなものとなるよう、福祉や医療、労働関係機関と連携し、就労支援の充実を図る。

### ③ 未来を担う子どもの育成 オ ICTを活用した教育の質の向上

端末を日常的に活用することで、児童生徒が、ICTを新たな学びのツールとして自由な発想で適切に活用できるようにするために、ICTの活用を前提として、これまでの実践を生かして授業を再構築し、教育の質を向上させる。

また、児童生徒の発達段階を考慮し、情報活用能力の育成を目指したカリキュラム・マネジメントを行い、児童生徒の学ぶ意欲を引き出すとともに、学習成果の向上に努める。

さらに、端末の持ち帰りを推進し、家庭等でも日常的に端末を活用した学習機会を増やす取組を推進する。



## 基本目標4：県民が暮らしやすい地域づくり（暮らす）

県民が暮らしやすい地域をつくるためには、県民が安全に暮らせる環境の整備や、健康で安心して暮らせる社会の構築、快適なまちづくりなどが重要である。また、県や市町村等の行政サービスについて、行政手続きにかかる時間の最小化や、それぞれのニーズに合ったきめ細かい行政サービスが受けられる環境づくりも重要である。

このため、激甚化する災害などに対応し、県民の安全・安心な暮らしを守るため、災害時の関係機関と連携した取組を推進することで、被災者支援の対策強化を図るほか、超高齢社会の中にあっても地域に必要な医療・福祉・介護などのサービスを確保する取組などを進めていく。さらに、県や市町村のDXの加速化など、スマート自治体の実現に向けた取組を進めていく。

### ① 安全に暮らせる環境の整備 エ デジタルを活用した安全な地域づくりの推進

災害・事故等の未然防止や初期対応の迅速化のため、デジタルを活用し、災害危険性や被災状況の迅速な検知、情報発信に取り組むとともに、実際に災害が生じた際には、防災情報システムを活用して、被害状況や避難情報等を効率的に収集する。

また、大規模地震発生時には、地震被害予測システム及び津波浸水予測システムも活用し、地震や津波による被害を予測するなど、災害対応の迅速化を図る。

さらに、市町村における災害対応業務の省力化・迅速化を図るため、災害対応に係るデジタル技術の導入を支援する。

### ④ 文化振興・スポーツを生かした千葉らしい地域づくり ア 文化芸術の振興

県民が身近に文化芸術に親しめるよう、文化芸術団体との共催による発表の場の提供、障害のある方の文化芸術活動の支援、新進アーティストの活動・キャリア形成支援、「千葉交響楽団」等を活用した各種公演や小中学生対象の鑑賞・楽器体験、県立博物館・美術館での収蔵資料や日頃の研究を活用した展示等を実施する。

また、千葉県誕生150周年を契機に開始した新たな文化芸術活動や、県民参加により選定した「次世代に残したいと思う『ちば文化資産』」の活用などを通じて、本県を特徴づける多様な「ちば文化」のブランド化を進め、県内外での認知度の向上と県民の誇りの醸成につなげる。

### ⑤ スマート自治体の実現 ア 県行政DXの加速化

県民が、いつでもどこでも、それぞれのニーズに合ったきめ細かい行政サービスを受けられる環境を実現するため、行政手続きのオンライン化等に取り組む。

また、生成AIなど近年急速に革新が進むデジタル技術の活用や業務の在り方の見直しにより業務効率化に取り組むとともに、県が保有するデータをオープンデータとして整備する。